鉄砲洲神社　論語素読　解説

（平成 21 年 4 月 10 日）

通五　子曰く、千乗の国を道むるには、事を敬して信、用を節して人を愛し、民を使うに時を以てす。

千乗とは 1 乗に鎧兜を着た兵士が 3 名、歩兵が 70 名付いた一つの戦車です。一両が 800 戸（件）の人達で賄われています。それが千乗ですから、80 万戸(件)の家の人達が出て、千乗の戦車を出すという意味です。

孔先生がおっしゃいました。

そういう力のある国を治める為には、国事は慎重にせよ。無駄な費用は使わないようにせよ。民の気持ちが分かるようになりなさい。

民を使うに時を以てす・・・この当時は、兵役だとか土木工事には民を使いますから、その時は農閑期を選びなさい。

これを今風に言えば、（日本は大国でもなく小国でもなく、中くらいの国ですから）日本の国を治めるには、国事は慎重にせよ。麻生さんは慎重にやっていませんね。無駄なお金を（定額給付金を）ばら撒くようなことをしていますから、正反対です。定額給付金などをばら撒いて、それで良しと思っているのですから、民の声はまるっきり分かっていません。3 年後には消費税を上げると言い切ったのは、それなりの腹があるから言い切っているので、民の氣持ちは全然分からないし、タイミングも考えていません。ですから麻生さんや小沢さんは、論語をしっかり読んで戴いた方が良いなと思います。

通六　子曰く、弟子 入りては 則 ち孝、出でては 則 ち弟、謹みて信あり、汎く 衆 を愛して仁に親しみ、行いて余 力 有れば 則 ち以て文を学ぶ。

孔先生がおっしゃいました。若い者は家の中では両親に孝行しなさい。村の寄合などでは、長幼の序を守りなさい。発言・行動等は慎重で、何か約束した時は必ず実行するようにしなさい。村の人達とはかけ隔てないようにして、人格者とは特に昵懇の間柄になりなさい。一所懸命自分のやりたい事をやって、尚且つ力が余るようであれば、それから始めて勉強をすれば良い。学者バカのように、最初から学んでばかりいて体験のないものは困るねえ・・・という内容です。

「文」とは、詩書六芸のことです。弓を射る能力だとか、馬を御する能力だとか、具体的な能力は、自分の時間に余暇が生まれてくればおやりなさいということです。

舛添さんなどを見ると、自分の親の介護に相当時間を使ったという事実があるので、国民から信頼を受けていますが、このあたりは実例があると思います。

通七　子夏曰く、賢を賢として色に易え、父母に事えて能く其の力を竭し、君に事えて能く其の身を致し、朋友と交わり、言いて信有らば、未だ学ばずと曰うと雖も、吾は必ず之を学びたりと謂わん。

子夏が言うには、女色にかけるエネルギーを、賢者を尊ぶような心持ちに変えなさい。女性が欲しいというエネルギーが強ければ強いほど、それを別の目的（賢者を尊ぶようなエネルギー）に変えなさい。そうすればそのエネルギーは活きます。これはなかなか難しい話です。

両親には一所懸命孝行しなさい。主君に対しては、一身を捧げるようなつもりで仕えなさい。

朋友の「朋」は学問をする友達、「友」は一緒に遊ぶ友達です。それらが合体したものです。それらと親交を結んで、自分が言った約束は違えないようにすると、相手から信用される。

そういう人であれば、「私は勉強などしたことがない」と本人が言っても、私は必ず学んでいる素晴らしい人だという賛辞を惜しまない。

渋澤論語をまた少しご紹介します。

「**賢を賢として色に易え**」という部分で、渋澤栄一さんは「男子の女色を好む心は、真誠なり」と説明しています。渋澤栄一さんがこういう事を言ったのだと思うと、ニヤッとなります。例えば、渋澤栄一さんの女の人に関する逸話があります。役所に渋澤栄一を訪ねてくるお客さんがいて、役所の人間が「今頃の時刻だと○○にいると思います」と、粋な黒塀・見越しの松のようなお屋敷を教えた。その方がお屋敷に伺って、「渋澤閣下はご在宅ですか」と外で大きな声を出しましたら、

「渋澤閣下とあろう方が、このようなしもた屋におられるはずがない。閣下はいついつ役所に戻られるはずだから、そちらでお待ちなさい」と本人が大きな声で怒鳴ったという逸話です。

又、渋澤家という名前を付けない子供たちがかなりいて、その子供達が自分の兄弟と思われる人達に生活費を配って歩いたという話が残っています。

更に、奥様が「あなたは論語で良かったですね。（キリスト教は女性を欲望の目で見ただけで誨淫をしたとなっているけれども）論語は下半身について、何にも言っていない。」と言われたとあります。

「吾は必ず之を学びたりと謂わん」の部分の説明では、学んだ人という解説を挙げています。木戸孝允・伊藤博文は、よく言いよく行う人であった（有言実行）と評価しています。

不言実行型が西郷隆盛と山県有朋であると書いています。これは少し並べ方がおかしいですね。山県有朋が亡くなった時の国民葬は、非常に不人気でした。なぜならば山県有朋が椿山荘のような別荘をあちこちに作ったわけですが、貰っていた月給で次から次に作れるはずがないというのが、巷の感情でした。

又、言った事をすべて行う人ではない。言うだけ言って、やらない人が、後藤象二郎と大隈重信である。一旦言い出したら、無茶でも通しぬくのが黒田清隆と江藤新平である。それから民間人で岩崎弥太郎などは、強硬なる実行家だと言っています。

本日はこれまでに致します。有難うございました。